

「いのち」の教育実践事例

☆新庄市の実践（新庄市立新庄中学校）☆

生命の継承の
大切さに
関する教育

— 「いのちの日」を通じ次世代に生命を継承することの大切さを考えさせる心の教育 —
「いのち」に関連した授業や取組み等を通じて、生徒が「いのち」について深く考える取組みを行っています。その実践の一部を紹介します。

○ 「いのちの日」の実践

これまで継続してきた「いのちを考える日」を引き継ぎ、いのち、絆、減災、防災等、震災やコロナ禍で学び、経験した数々のことを振り返る「いのちの日」とした取組み。

社会全体が互いに寄り添いながら、コロナ禍後の生活様式を取り入れ、「皆で工夫していく」「生活をつくっていく」「自助共助」ということを通して、いのちについて考えた。

(1) 読み聞かせ…8:10～ 朝読書

朝読書の時間に、学級担任を中心に各学級で震災に関する絵本の読み聞かせを行った。実際の映像と異なり、絵本を活用することで、読み手の思い以上に、生徒が絵本の思いを膨らませ、震災について深く考えることができた。

(2) 道徳の実践…13:30～ 5時間目

「いのち」「絆」「助け合い」「減災」「自助共助」等を主題とした道徳の授業を実践した。ほとんどの生徒は震災の記憶がないので、映像資料を使い、授業者が当時のことを振り返り、伝える時間を設定した。特に、何を語ればよいのかを教師自身が問い返し、あの日、あの時に感じたことを、強い思いをもって伝えた。

※授業を通して感じたこと、思ったことを記入し道徳ファイルに保存している。2・3年生は昨年度記入した感想や思いを読み返しながら、いのちの尊さについて、深く考える機会となった。

(3) 雪灯籠設置…15:30～ 放課後

生徒会執行部やJRC委員会を中心に、ボランティアを募り、雪灯籠を製作、設置し、思いを馳せることができた。

朝の読み聞かせの様子

生徒の真剣に絵本に浸る姿があった。



道徳の様子

価値項目「生命の尊重」を中心に授業を展開している。

掲示物も震災に触れる
内容に変更!

震災に思いを馳せ、雪灯籠を製作している。夕刻に火をともしことで幻想的な風景となり、地域にも、新庄中の取組みを周知している。

